

【大学・地域共創プラットフォーム香川】
令和6年度第2回就職・産業振興部会 議事要旨

開催日時：令和6年12月16日（月）15：00～16：50

開催方法：香川大学幸町北キャンパス

法人本部5階第2会議室（高松市幸町1番1号）

出席機関：香川大学 山神 眞一、香川県 臼山 勇、香川県 久保 雅美（代理）、
香川県 岡村 武典、四国学院大学 風折 知愛子（代理）、徳島文理大学
横山 賢治、香川短期大学 齊藤 栄嗣、香川県商工会議所連合会 片桐 操
（代理）、香川県商工会連合会 松園 和夫、香川県中小企業団体中央会
朝國 和樹、香川経済同友会 國村 一郎、香川県中小企業家同友会 大森
基生（代理）、香川県農業協同組合中央会 大村 康夫、香川県漁業協同組
合連合会 塩田 元広、香川県銀行協会 松田 秀司、高松市 大森 敏裕
（代理）、土庄町 九富 崇（代理）、小豆島町 相原 隆幸

（出席機関 18 /21）

議題事項

1. 令和6年度事業進捗状況について【資料1】

令和6年度の就職・産業振興部会における事業進捗状況について、各担当から説明を行った。

【委員による補足、意見等】

○No.1 学生の就職選定の実態把握（香川県 岡村委員）

- ・学生と企業へのアンケート調査の分析により、学生の就職活動に比べ、企業の採用活動の開始時期が遅い、学生はインターンシップを通して就職先を選定していくが、企業ではマンパワー不足等でインターンシップを行えていない、学生が知りたい情報と企業のPR情報のギャップといった実態が分かった。
- ・こうしたギャップを、いかにして県内企業自身の採用活動の見直しや支援等に繋げていくのかということが重要なので、来年度の部会内での結果共有及び意見交換を通じて、令和8年度に向けたPF事業の展開が可能か検討していきたい。

●学生が知りたい情報と企業のPR情報との間にギャップが見られたとのことだが、具体的にはどのようなギャップがあるのか。（香川県商工会連合会 松園委員）

⇒学生は給料・福利厚生、やりがいや企業の安定性などを非常に重視しているのに対し、企業は企業の安定性のPRが圧倒的に多く、給料・福利厚生、やりがいなどをPRできていないことが分かった。アンケート結果については、大学・地域共創プラットフォーム香川のホームページに掲載しているので、参考にしていただければと思う。（香川県 岡村委員）

●更にアンケートを実施するということはないのか（山神部会長）

⇒現段階では、調査結果を踏まえてどのようなことができるのかということを考えていくことが重要だと考えている。（香川県 岡村委員）

●広く企業の方に知ってもらうためにアンケート分析結果の公表の仕方などを工夫してもらえればと思う。（山神部会長）

○No.2 かがわーくフェア（香川県商工会議所連合会 片桐氏、香川県労働政策課 岡村委員）

- ・県内の大学生等に4月から積極的に動いてもらい、多くの企業に目を向けてもらいたい、学生の確保が難しい状況となっている。県外に進学した学生に対しても積極的に情報発信していきたい。（香川県商工会議所連合会 片桐氏）
- ・県内学生と県外学生が半数ずつの参加となっている。広報解禁前の実施であり、低年次の学生をターゲットとしている。学生の就職活動も早期化し

ているため、県内企業を知ってもらう良い機会になったのではないかと
思う。一方で対面方式には、企業が学生の雰囲気などを知ることができる
というメリットもあり、県内企業からのアンケート結果を踏まえて、来年度
の開催方式について検討していきたい。また、個人的には、中学生や高校
生といった早い段階で県内企業を知ってもらうということも重要ではな
いかと思う。(香川県 岡村委員)

●来年度の継続実施をお願いしたい。(山神部会長)

○No.3 業種別オンライン県内企業見学ツアー(香川大学 圖子次長)

・昨年度に比べ、参加学生数が増加した。今年度は県外大学生も対象とし
たが、参加者が想定よりも少なかったため、何らかの工夫が必要だと考
えている。

●来年度の継続実施をお願いしたい。(山神部会長)

○No.4 うどん県の自治体で働こう大懇談会(香川大学 圖子次長)

・昨年度に比べ、参加学生数が大幅に増加した。また、参加自治体数も増
加した。参加学生数が多かったため、希望する自治体の話が聞けなかつ
たという学生も出ていたので、運営の工夫が必要だと考えている。

●来年度の継続実施をお願いしたい。(山神部会長)

○No.5 県内大学生・短大生・高専生キャリア形成チャレンジ(香川短期大学
齊藤委員)

・令和5年度PF事業として「キャリア支援研修会」を実施していたが、学
生が集まらないということで、内容を改善して実施するものである。魅力
ある県内企業のOB・OG経営者の話を聞いて、学生の早期のキャリア意
識醸成に繋がりたいと考えている。参加学生数がまだ定員に届いていな
いので、ぜひ周知に御協力いただきたいと思います。

○No.6 外国人材活用セミナー&交流会(香川県商工会議所連合会 片桐氏)

・今年で3年目であるが、企業数は微増傾向にある。穴吹学園やしごと
プラザ高松との実施時期も被っていることもあり、共同開催など検討し
たいと思う。また、コロナ禍があげて人手不足が顕著であることから、
企業側の外国人材への意識も変わってきているので、マッチングを強
化していく必要があると考えている。

●穴吹学園・高松しごとプラザ高松との合同開催は可能なのか。(山神部会長)

⇒穴吹学園は前向きに検討してくれており、高松しごとプラザは今後働
きかけたいと思っている。参加企業数も増えるし、相互の強みを生か
せるのではないかと考えている。(香川県商工会議所連合会 片桐氏)

●主催・共催の整理を上手くしていただきたい。外国人の方や企業が参
加しやすい形を検討してもらえればと思う。(山神部会長)

○No.7 インタビューシップ【高校生】(香川県中小企業家同友会 大森事務
局長)

・高校教員10名にアンケートを行ったところ、インタビューシップを通
じて生徒が変化したかという質問に対して、生徒全員が変化したとの回
答があった。また、生徒の成長に効果的な影響があったかという質問に
対しては、生徒の成長に効果的な影響があったとの回答が100%であり、
生徒の成長に影響を与えた要因は何かという質問に対し、1番多かった
回答が「経営者と生徒の対話・ふれあい」であった。未導入の高校に転
勤した際に、主体的に取り組みたいかとの質問に対して、8名が主体的
に取り組みたいとの回答があった。

・本取り組みは他県にも広がりを見せており、今年度は北九州市立高
校でも同様の活動が実施されているところである。

●来年度の継続実施をお願いしたい。(山神部会長)

○No. 8 インタビューシップ【大学生】（事務局 児玉）

- ・高松大学の蓮井委員の協力を得て実施した。インタビューシップ報告会に参加したが、学生からは、実際に企業を訪問して職場の雰囲気を知れたことが良かったとの意見が多かった。学生の県内定着にプラスの影響を与える取組みであると考えている。

●来年度の継続実施をお願いしたい。（山神部会長）

○No. 9 高校、大学等のイベントへのブース設置（香川県漁業協同組合連合会 塩田委員）

- ・香川短期大学の学生に対し、香川県の漁業・農業に関する講義を実施して少しでも関心を持ってもらえたと思う。地域を支える人材育成・人材定着に資する取組みであるかという点には少し疑問があるが、このような取組みは継続して、積み重ねていくことが重要だと考えている。

●手ごたえを感じてはいるものの、これで良いのかという感想であったと思う。ただ、こういう活動は今までになかったことなので、継続的に実施していただきたい。（山神部会長）

○No. 10 高校、大学等のイベントへのブース設置（香川県中小企業家同友会 大森事務局長）

- ・アオ活 in 高松大学・高松短期大学では、高松大学の学生が事前に企業訪問して、企業のPR動画を作成した。
- ・アンケート結果などからは、地元中小企業の理解につながったことが分かるが、イベント的な要素が強いため、地域に若者を残すという本来の目的に立ち返って見直した事業に変更していく必要があると考えている。

●来年度の実施についてはどうお考えか。（山神部会長）

⇒飯山高校で考えてはいるが、他の高校での実施も視野に入れている。宮城県中小企業家同友会の事例を参考にして、もう少し深掘りできるような内容にしたいと考えている。（香川県中小企業家同友会 大森事務局長）

●ぜひとも、更に充実した事業にしてほしいと思う。（山神部会長）

○No. 11 地元中小企業魅力発見ツアー【高校生】（香川県中小企業団体中央会 朝國委員）

- ・昨年度は大学・地域共創プラットフォーム香川産学官共創チャレンジ支援補助金を活用して、県内高校生を対象として実施していたが、今年度は保護者も対象に含めたいと考えている。
- ・本事業は、本会の青年部役員が運営しているものであるが、学生と経営者との交流やランチミーティングの実施を考えている。

●非常に良い取り組みだと思うので、次につながるような企画にしていいただきたい。（山神部会長）

○No. 12 地元中小企業魅力発見ツアー【大学生】（香川大学創造工学部 石原准教授）

- ・申込の段階では17名であったが、最終的には9名が参加した。企業側からも今後も継続してほしいとの話があった。ただし、香川高専側との日程調整が上手く行かなかったという課題もあった。

●来年度の実施についてはどうお考えか。（山神部会長）

⇒参加者を確保したいので、休業期間中の9月後半で実施したいと思う。可能ならば、製造業中心とはなるが高松・中讃の企業を対象に2～3日で開催したと思っている。

参考ではあるが、創造工学部で企業セミナーを開催した。企業72社が参加し、うち県内企業は19社である。大学院生の参加が極端に少ない。修士課程1年は、この時期には既に最終選考に進んでいたり、内々定が出ていたりという学生が2割程度と、大学院生の就職活動がかなり早期化していることが要因の1つだと考えている。また、ネットでの情報収集に依存しており、対

面のイベントには参加せず、オンラインのイベントに参加するという傾向にあるため、その辺りも今後の事業検討の参考にしていただければと思う。

- 様々な事業で、学生の参加者数に課題があるとのことだったが、学生のニーズとのギャップがあるのではないかと思う。学生の実態把握やニーズを掴むことが重要でないかと思う。(香川経済同友会 國村委員)

2. 令和7年度事業について【資料2】

令和7年度の就職・産業振興部会における事業進捗状況について、各担当から説明を行った。

【委員による補足、意見等】

○No.1 産学連携交流サロン（小豆島町 相原委員）

- ・小豆島町と大阪府茨木市との間で姉妹都市提携をして、子どもたちのキャンプ交流などを行っているところであるが、一昨年から産業として関わりを持てないかという話になった。
- ・小豆島内には大学がないので、高校を卒業すれば県外に出る場合が多い。小豆島には、「醤油・佃煮・そうめん」といった基幹産業が残されているが、担い手不足が深刻となっている。大阪府の大学に研究を委ねたり、商品開発をしたりといったことで、町の産業支援施策として展開しているところである。
- ・県内大学等及び香川県との連携協定を締結している大学等と事業者が交流するイベントを実施できないかと思う。また、香川県に帰ってきて良いと思っているような学生との交流を通じて移住促進にもつなげたいと考えている。

○No.2 地元中小企業魅力発見懇談会（香川県商工会議所連合会 片桐氏）

- ・企業説明というよりは、産業や業種への理解を深めてもらうということを目的とした交流会の開催を想定しているところである。

○No.3 県内学生のキャリア形成支援カフェ実施事業（事務局 児玉）

- ・経済団体に対しては、企業が一定の費用負担があっても参加したいと思えるものかということ、大学等に対しては、本事業についてどのように感じたかを伺いたい。
- ⇒・小規模事業者が多い団体であるが、参加を希望する企業はあると思う。軽食代などについての費用を企業が負担するのは大丈夫ではないか。(香川県商工会連合会 松園委員)
- ・開催すれば一定の数は集まるかもしれないが、求める規模になるのかというところが疑問である。学生のニーズがあるのかということも検討すべきではないか。(香川経済同友会 國村委員)
- ・教員が学生に直接呼び掛けても参加は難しい状況である。卒業生の社員が来る際には、割と学生の参加もあるように思うが。SNSを活用したり、若い社員が情報を発信したりというのが必要だと思う。授業の一コマに入れてもらうような対応も必要ではないか。(徳島文理大学 横山委員)
- ・就職相談でjob サポーターを設置しているが、1時間に1名ずつ入っているような状況。ただ、企業紹介をしてほしいというのはほとんどなく、受ける企業は決めているので、履歴書の作成指導や面接練習のために利用されている。(徳島文理大学 横山委員)
- ・リクルーター（卒業後3年程度のOB・OG）が参加するイベントなら、学生は比較的参加しているといった印象。ただ、リクルーターがいる企業に限ってしまうと、それ以外の企業は参加できないということになってしまうことが課題であると思う。(香川大学創造工学部 石原准教授)
- ・任意のイベントの場合、学生250名に対し、4～5名程度の参加しかない状況。2年前から授業の一環で就職ガイダンスを行うようになったが、学生集めには限界を感じているところである。(四国学院大学 風折課

長補佐)

- ・単なる学生への案内では学生は動かない。イベント参加とレポート提出によって授業の出席とみなすような仕組みなど考えないといけないと思う。(香川短期大学 齊藤副学長)

○No. 4 留学生等と企業の交流会&合同企業説明会(香川県 岡村委員)

- ・令和元年度から開催して、今年度で6回の実施を迎える。高松商工会議所で実施している事業は外国人と企業の交流会という面が強いが、本事業はマッチングに繋がりたいということを目的として実施している。
- ・昨年度までは、対面で実施していたが、今年度はオンラインで実施した。周知に努めたものの、一部の県外大学の留学生には参加していただいたが、県内大学等と専門学校が対象者の中心となっている。来年度は対面方式に戻すことを検討している。プラットフォーム事業とすることで、経済団体については参画企業の周知を行ってもらい、県内企業の参加を増やしたいということ。穴吹学園の専門学校の参加がほとんどであり、県内大学等の留学生への個別の周知などにより、参加を増やしたいという目的がある。SNSを通じてよりも、圧倒的に学校からの案内がきっかけとなっていることが分かったので、このような提案をさせてもらっている。

●どの程度マッチングができたのか(山神部会長)

⇒令和4年度については、6名のマッチングに繋がった。(香川県 岡村委員)

●対象者が同じところであれば連携すべきだと思っている。若しくはそれぞれの事業での役割分担など。なので、検討が必要かなと感じている。(山神部会長)

○No. 5 企業・団体が独自に行っている取り組み(SDGs等)に学生と一緒に参加する(香川県農業協同組合中央会 大村委員)

- ・企業等が実施しているSDGs等の取り組みについて興味を持つ学生もいると思うので、そういった学生の就職に繋がるような取り組みをしてはどうかと考えている。

大学・地域共創プラットフォーム香川就職・産業振興部会の活動から3年経過して、今後どうしていくべきかを考えていく時期を迎えているので、ぜひ委員の皆様からご意見をいただければと思う。

また、次年度事業について事務局から相談などがあると思うが、ぜひ少しでも良くなるようにご意見をいただければと思う。

なお、部会事業については、運営委員会で審議していくことになるので、これから整理していきたい。(山神部会長)

2. その他(学生の県内定着に関する変化について)

以下のとおり意見交換が行われた。

○「①昨年度末と比べての県内定着の状況の変化、②県内企業の求人活動の変化 ③学生の意識・就活の状況の変化」について、情報共有いただきたい。

(香川県 臼山委員)

○学生からの回答率が100%ではないが、県内定着の状況はほぼ変化はなし。学生の意識・就活の状況の変化もあまり感じていない。(香川大学 圖子次長)

○香川大学創造工学部の状況でいうと、香川県からの進学率は2割くらい。香川県出身者の県内定着率は7割程度。全体でいうと3割程度。大学院生は地域よりも企業・業種で選ぶ傾向が強いため、県内定着率は低くなる。香川県内の高校からの本学への進学者をいかに確保するのかというところが重要になっていると思う。(香川大学創造工学部 石原准教授)

○理工学部・文学部で県内学生が45%程度、その8割が県内就職している。昨年度から状況は変わっていない。就職活動のペースが昨年度より、1ヵ月程度早くなっていると思う。夏のインターンシップで囲い込みに入るような企業の採用活動の早期化も感じているところである。(徳島文理大学 横山

委員)

- 学生の6割が県内出身者で、その6割が県内企業で就職している状況である。まだ集計はしていないが、昨年度から県内就職率に変化はないと考えている。昨年度から県外就職が増えたが、オンラインでの面接等ができるようになり、交通費がかからなくなったので、県外の大手企業を受ける学生が増加したということが要因ではないかと考えている。県内企業の採用活動の早期化と充足しないことによる長期化という印象。学生の就活の変化としては、3・4社と企業を絞って受けているという印象がある。(四国学院大学 風折課長補佐)
- 学生の88～89%が県内出身者であるが、11月現在で就職内定率は約70%でそのほとんどが県内に就職している。学生の意識としては、県内志向が強くなっているという印象である。(香川短期大学 齊藤委員)
- 学生がSNSで情報を収集しており、そこに対応していくような支援が必要ではないかと思う。ただ、SNSを活用して情報を発信できる人材がいる企業がどれだけいるのか。副業人材のプラットフォームもあるのでそういったものも活用していく必要があるのではないかと思う。企業の動きとしては、SNSを活用するということではなく、従前どおりの採用活動を行っている印象がある。(香川県商工会議所連合会 片桐氏)
- 地域への定着については、中学生・高校生に向けた情報発信が必要なのではないかと思う。(香川県銀行協会 松田委員)